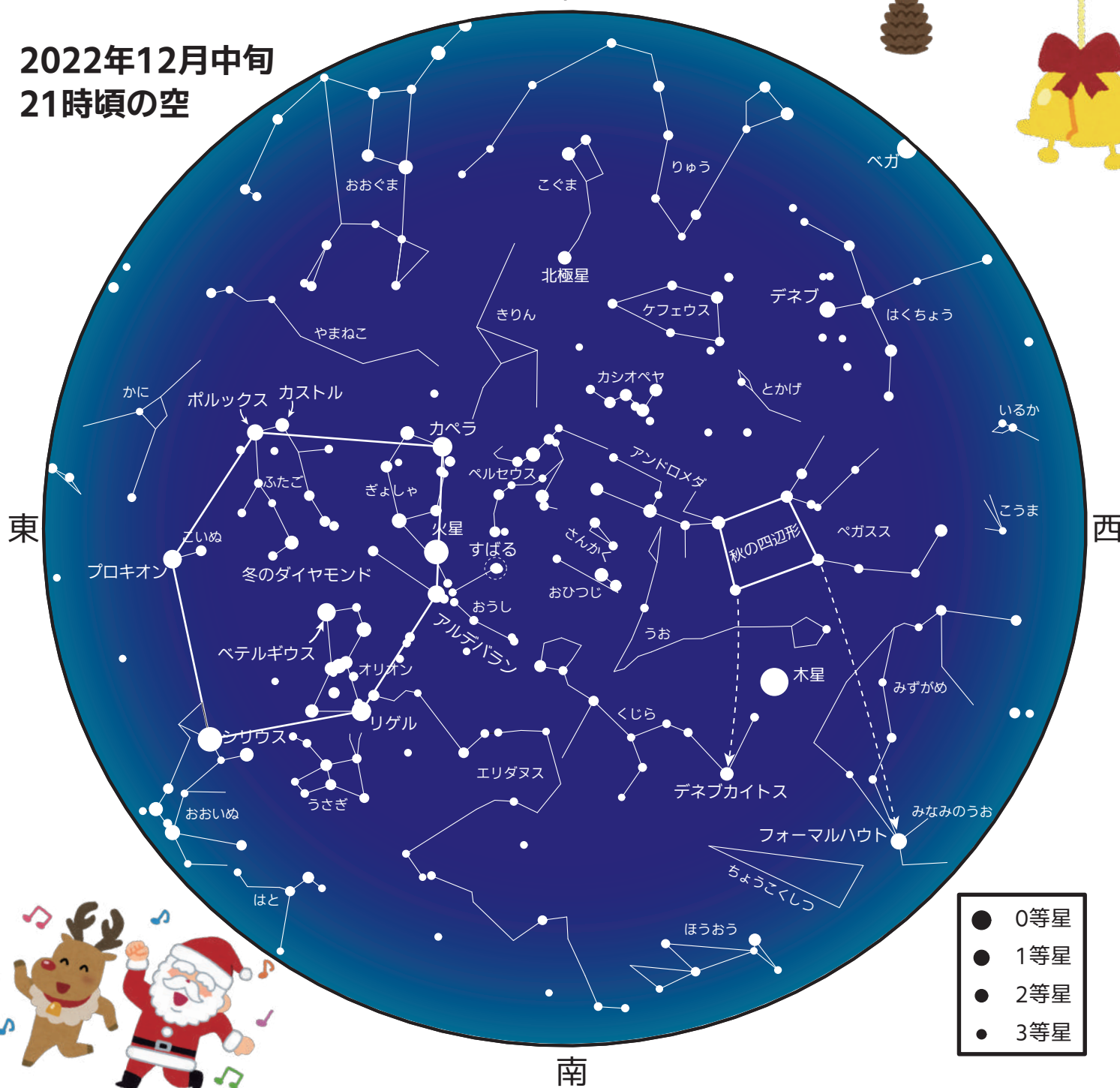


# 阿南市科学センター 12月の星空案内

北

2022年12月中旬  
21時頃の空



12月に入り、2022年も残すところあとわずかとなりました。この時期の夜空を見渡すと明るい星がいくつも目に留まります。特に東側には一等星を結んでできる冬のダイヤモンドが見えていてより豪華な夜空となっています。それに加え、今年の冬は接近している火星が赤く輝き花を添えています。ところで、明るい星たちと火星が近くに見えており、どの星が火星なのか一目では判断が難しくなっています。また火星をはじめとする惑星は、他の星座に対して見える場所も日々変化します。そのような場合は星の光り方に注目してみると良いでしょう。惑星以外の星はきらきらと瞬きますが、火星などの惑星はあまり瞬かないという特徴があります。これを手掛かりにすると、南西の空に木星も見つけられます。師走の名のごとく忙しい時期ですが、ふと夜空を見上げて一息ついてみるのはいかがでしょうか。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】  
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

# 12月の月の満ち欠けと惑星について



満月  
8日



下弦  
16日



新月  
23日



上弦  
30日

## 12月の天体観望会で月が見える日時は？



12/3(土) 全ての回で観察可能



12/10(土) 20時の回後半のみ観察可能

- 水星：下旬ごろ、日没後、西のごく低空に見える。【約 -0.5 等】
- 金星：中旬ごろより、日没後、西のごく低空に見える。【約 -3.9 等】
- 火星：一晩中見ることが出来る。【約 -0.9 等】
- 木星：夜のはじめごろから見られ、夜遅くに西の空へ沈む。【約 -2.5 等】
- 土星：夜のはじめごろから見られ、21時ごろに西の空へ沈む。【約 0.8 等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ下旬の明るさ。



今月は観望会で木星と火星を見るチャンス!!



## 今月オススメの天体・天文現象

### ★火星 (1日最接近)

1日に**火星最接近**となり観望の好機をむかえています。火星接近といっても、火星が地球に近づいているわけではありません。地球は約**1年**、火星は約**1.88年**で太陽のまわりをひとまわりします。イメージとしては地球と火星がかけっこをしていて、地球の方がインコースを走っている状態になります。そして**2年2か月**ごとに地球が周回遅れの火星を追い越します。これが火星接近のしくみです。

科学センターの113cm望遠鏡で火星を見るととても明るく、表面はオレンジ色に見えています。これは火星表面にある赤さびの色です。またよく見てみると火星の模様が見え、オレンジ色の部分だけでなく茶色い部分があるのも分かります。さらに、地球の大気が安定している時などは、火星のふちに白っぽい極冠が見えることもあります。接近を機に火星観察をしてみたいはいかがでしょうか。

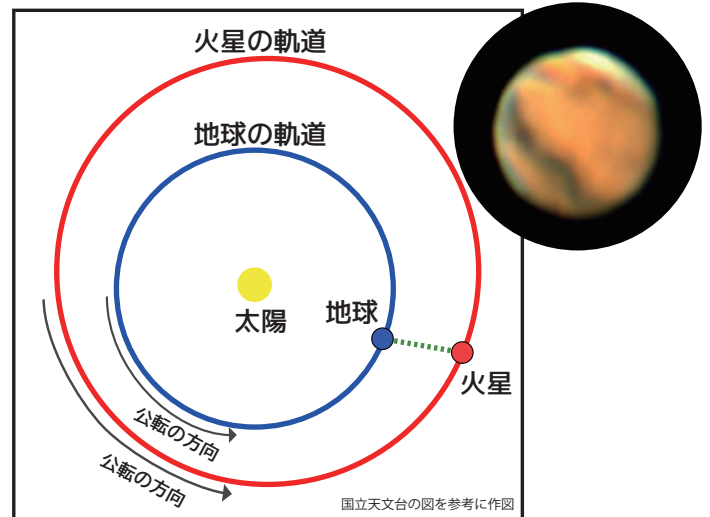


図1. 今回の火星接近時の太陽と地球と火星の位置

写真1. 25cm望遠鏡で撮影した火星 (撮影：A.Suzuki)

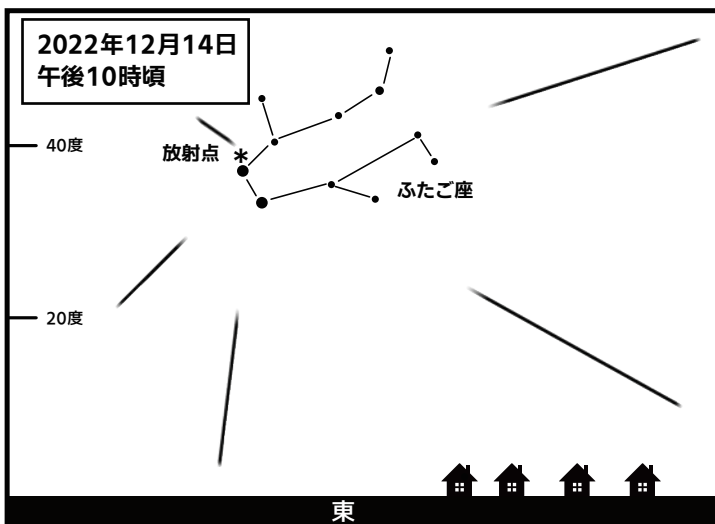


図1. 2022年12月14日のふたご座

### ★ふたご座流星群 (14日ピーク)

1月のしぶんぎ座流星群、8月のペルセウス座流星群と共に3大流星群のひとつに数えられるふたご座流星群が14日22時頃にピークをむかえます。ふたご座流星群は毎年安定した数の流星が見られ、一晩中見られることからオススメしたい流星群です。

流星を見るには望遠鏡や双眼鏡などの特別な道具は必要ありません。また、流れ星はふたご座の近くだけでなく、どの方位にも見られますので、なるべく空全体が見渡せる場所で観察すると良いでしょう。より多くの流星を見るには、月明かりを避けることがベストです。阿南市では22時ごろから月が昇ってきますので、西の空など月明かりのない方向の空を見てお楽しみください。寒い時期になります。暖かい格好をして流星を観察してみてください。